

# 第4回 双葉町復興まちづくり委員会

## ふるさと再建部会 議事録

■日時：平成25年1月17日（木） 委員会 午後1時00分～午後2時45分  
部会 午後3時00分～午後3時45分  
委員会 午後4時00分～午後4時30分

■場所：双葉町役場埼玉支所 4階 4-B

■出席者：ふるさと再建部会委員  
事務局（双葉町企画課）

（参照：第4回ふるさと再建部会座席表）

### 1. 開会

【木幡 敏郎 副部会長】

それでは皆さんこんにちは。どうも寒い中お忙しい所本当にご苦労様です。本日、部会長の清水先生が所用のために欠席されておりますので、副部会長を務めております木幡ですが、進行を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

### 2. 議事

（1）ふるさと再建に向けた取組の考え方について（審議）

【木幡 敏郎 副部会長】

早速ですけれど議事に入りたいと思います。先程の委員会で復興まちづくり計画に盛り込む内容については審議をされましたけれども、それを踏まえて、ふるさと再建に向けた取組の考え方についてということで進めていきたいと思います。それでは、はじめに事務局から資料の説明をお願いします。

【事務局 平岩 邦弘】

それでは資料の方を説明させていただきますが、まず資料2になります。ふるさと再建に向けた取組に盛り込む内容についてという資料になります。先程の委員会の方で計画に盛り込む内容についてということでご審議をいただきまして、おおむね了承されたものというふうにご考えておりますけれども、その中で、今後計画の中で具体的な施策として盛り込むべき内容、これを各部会にテーマ設定をしていくということをご考えております。3つのテーマがございまして、これは先程委員会の方で説明したところでございます。その中の1つとして、「ふるさと双葉町の再建に向けた取組」ということで、この部会の方でまさにご議論いただいているテーマが1つの柱となっているということでございます。この資料の中にありますけれども、項目としてはこの部会では大きく3つに分けて項目立てをしてはどうかということでご提案をしております。1つは、「帰還に向けた条件と条件達成に向けた取組」についてであります。2つ目が「双葉町の当面の土地利用の在り方」について。それから3つ目が「双葉町の将来の再興に向けた取組」という3つのテーマ設定であります。

37           まず1つ目の「帰還に向けた条件と条件達成に向けた取組」についてでありますけれども、帰  
38 還に向けた条件については、これまで開催しております7000人の復興会議での成果の取りまと  
39 め、また、住民意向調査、こちら今整理をしておりますけれども、これらの結果を踏まえて、住  
40 民が必要とする帰還に当たっての条件を今後整理していく必要がある。それで具体的には放射線  
41 量の低減に加えて、帰還に当たって備えるべき条件、こういったものを整理してみてもどうかと  
42 いうようなことでございます。例として挙げておりますけれども、放射性物質の除去、原子力発  
43 電所の廃炉措置の安全性の確保、双葉町もしくは双葉町から通勤できる範囲での雇用の確保、医  
44 療機関の整備、介護・福祉サービスの確保、町内の学校の再開、町内に商店、コンビニエンスス  
45 トアなどの生活商業施設の再開、他の住民がある程度戻ることなど、こういったものが考えられ  
46 るのではないかというふうに思います。また、「帰還に向けた条件達成の取組」としては、その  
47 取組内容を整理していくということで、例えば放射線のモニタリング、除染技術の開発とそれ  
48 による除染の徹底、インフラの復旧等が考えられます。これは、これまでの部会での議論を踏まえ  
49 て一応整理をしたというようなことでございます。

50           2つ目としては、「双葉町の当面の土地利用の在り方」ということで、まず1つは、ふるさとの  
51 荒廃を防ぐ取組が必要であるということでございます。例えば、一時帰宅を通じてふるさとを  
52 身近に感じられるよう、一時帰宅を改善するとか、墓地を再建する必要がある。また、一時帰宅  
53 や立入が安全に行えるよう、インフラの応急復旧等が必要である。土地・建物の管理の在り方や  
54 土地の暫定的な活用の仕組みを考える必要がある。こういったものが考えられるのだと思います。  
55 なお、※印で記載をしておりますけれども、今回のとりまとめの段階では中間貯蔵施設の取扱に  
56 ついてはまだ結論が出ておりません。そのことから、今回の計画においては中間貯蔵施設につ  
57 いて記載はしませんが、中間貯蔵施設は復興まちづくりに大きな影響を及ぼすことから、その結論  
58 が出された段階で、計画を見直すことを明記してはどうかというご提案をさせていただきたいと  
59 思います。2つ目の津波被災地域の復旧・復興の在り方についてですが、長期間にわたって町全  
60 体の帰還が困難な中にあり、津波被災地域の住宅再建の在り方などについて、被災住民が参画し  
61 た検討体制を整理する必要があるのではないかと。また、隣接する浪江町の復興計画との整合性な  
62 ど、津波被災地域の復旧・復興に当たって考慮する事項を整理する必要があるのではないかと。以  
63 上を項目立てとして挙げております。

64           大きな3つ目として、「双葉町の将来の復興に向けた取組」ということで、これについては長  
65 期的な議論になりますので今後議論を継続するというようなことになるかと思いますが、将来の  
66 復興に向けては、土地利用の再編、インフラの新設、新たな産業の立地などについて、長期間に  
67 わたって町民間で議論を続ける仕組みを整理してはどうかというように提案をさ  
68 せていただいております。今日の部会の議論の方では、ここに書いてある項目をたたき台とし  
69 まして、追加あるいは修正すべき点がないかどうか、これについてのご議論をいただければと思  
70 います。

71           めくっていただいて、資料2-②ですが、これについては、先程の委員会の方で説明した資料  
72 と同じものとなっておりますので説明を省略させていただきます。また、資料2-③につきましては、  
73 帰還困難区域の定義と性格ということでまとめたものであります。これについては、既に  
74 皆さんご承知のことかと思っておりますけれども、帰還困難区域の定義については、5年間を経過して

75 もなお、年間積算線量が 20m Svを下回らない恐れがある、現時点で年間積算線量が 50m Svを超  
76 える地域、これを帰還困難区域というふうに設定すると国の方で定めております。この区域にお  
77 いては、将来にわたって居住を制限ということで、線引きは少なくとも5年間は固定するという  
78 ようなことであります。ただ、立入規制など区域の運用についてですけれども、この地域は  
79 汚染レベルが非常に高いということもありまして、区域境界においてバリケードなど物理的な防  
80 護措置を実施する、住民に対して避難の徹底を求めることが検討されております。ただ、例外的  
81 に現在行われているような住民の一時帰宅、これについては実施されるというふうなことでござ  
82 います。また、現在整備されておりました常磐自動車道についてですけれども、これについては線  
83 量の高い地域に通っているということもありまして、除染、それから工事を進めるということで、  
84 早期に開通を目指すというふうなことであります。また、除染及びインフラ復旧について  
85 は、高線量地域である帰還困難区域の除染、インフラ復旧については、モデル事業などの結果を  
86 踏まえて、県、市町村や住民など関係者と協議の上、対応の方向性を検討するというようになって  
87 おります。これについては、今後の帰還に向けた考え方について対応するものでもあるという  
88 ことで、改めて帰還困難区域については説明をさせていただきました。

89 資料3については、先程説明したとおり、部会委員の方から提案いただいたものでございます。

90 資料4につきましては、これまで3回開きました部会での論点を、これをテーマといいますか、  
91 項目毎にまとめておいたものであります。まず、1 ページ目の帰還に向けた条件ということで、  
92 1つとしては帰還ができるようになるために何がどの程度まで改善されている必要があるといえ  
93 るのかという点について、部会の方で出た意見をまとめたものでありますので、この資料につい  
94 てはあとでご覧いただければと思います。1 ページの方では、帰還条件の総論に関する意見、ま  
95 た、放射線量、除染等に関する意見。2 ページの方では、原子力発電所の安全性に関する意見、  
96 インフラ及び生活関連サービスに関する意見。3 ページの方では、雇用創出、産業誘致等に関す  
97 る意見、これらが出されておりました整理したものであります。また、4 ページについては、津  
98 波被災地域の復旧・復興についてということで、1つは双葉町への帰還が可能となった場合の津  
99 波によって被災した地域、こちらが空間線量が他の地域よりも低いことも考慮して、地域でどの  
100 ような位置づけが担えるのかというような議論、もう1つは、双葉町への帰還が可能となった際  
101 に、津波被災地域をどのように復興していくかということについて議論した内容であります。4  
102 ページの方では、復旧・復興における津波被災地域の位置づけに関する意見、津波対策に係るイ  
103 ンフラ整備に関する意見、住宅及び墓地の整備に関する意見が出ておりました、こちらを整理し  
104 たものでございます。

105 以上、簡単で申し訳ございませんが、資料説明については以上とさせていただきます。よろし  
106 くお願いいたします。

107 【木幡 敏郎 副部長】

108 先程の全体会議から皆さん方のいろいろな思いを、本当にお聞かせていただいたのですが、  
109 このふるさと再建部会では、双葉町の復興計画に盛り込む内容についてということで、事務局に  
110 案を作っていただきましたので、先程事務局から説明がありましたが、それについて、また追加  
111 する、修正すべき点はないかということでご審議をいただきたいと思っております。資料2-①にあり  
112 ますように、1つは、「帰還に向けた条件と条件達成に向けた取組」について、2つ目は、「双葉

113 町の当面の土地利用の在り方」について、それから 3 つ目は、「双葉町の将来の再興に向けた取  
114 組」についてということであります。まず、皆さんにはいずれの論点からでも結構ですので、こ  
115 れらに更に盛り込む項目があれば、項目について追加とかまた修正すべき点がないかなどについ  
116 て、まずご意見をお聞かせいただきたいと思います。どの項目・論点からでも結構ですので。

117 【竹原 天 委員】

118 その前に我々の委員というのは任期があるわけでしょ。それはいつまでなんですか。

119 【木幡 敏郎 副部長】

120 その点については事務局の方から。

121 【事務局 平岩 邦弘】

122 竹原委員の方からご質問のありました復興まちづくり委員会の委員の任期についてでありま  
123 すけれども、委員会の設置要綱の中で、委員の任期ということでは計画が策定されるまでの間とい  
124 うことになっております。計画については、今年 3 月まで策定ということでは町の方からはお願い  
125 をしているところなのですが、具体的にいつまでということでは要綱上はうたっておりませんけ  
126 れども、そのようなスケジュールの中で進めておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

127 【木幡 敏郎 副部長】

128 よろしいですか。

129 【竹原 天 委員】

130 それから、さっき議員は削除されたんだよな。

131 【木幡 敏郎 副部長】

132 今回はね。

133 【竹原 天 委員】

134 そうすると、例えば、町長推薦なんてもんがあるんだよ。町長の推薦によって入った人。

135 【木幡 敏郎 副部長】

136 名簿にありましたね。

137 【竹原 天 委員】

138 そういう人は、町長今度、自然とどうなるかわかんないけれども、そのときその人は削除され  
139 んですか。どう、事務局。

140 【木幡 敏郎 副部長】

141 事務局の考え方で。

142 【竹原 天 委員】

143 そこら辺まできっちりやってくれないと、俺も歳だからね。そんなに先進んだ何十年も先のこ  
144 とは質問できないから。せいぜい俺が生きてる間の範囲では話できるけども。そこから先は今度  
145 若い人に引き継いでもらわないといけないから。やっぱりそういう任期的なものをきちっとして、  
146 若い人に引き継いでいけるような形をとってもらいたい。そういう意味ではきちっとしてもらい  
147 たいんです。

148 【木幡 敏郎 副部長】

149 事務局の考えは。

150 【事務局 平岩 邦弘】

151 この委員会は、委嘱は町長ですけれども、町の方で設置をお願いして、委員の方でご審議いた  
152 だいているということで、委員会の方でご議論いただいているところですので、今後のことにつ  
153 きましては私の方からこうなるとかこうだろうとかいう話はなかなかしづらい部分もあるん  
154 ですけれども、これは町の復興まちづくり計画策定のスケジュールに沿って、進めていくように  
155 お願いをしたいと思いますので、これは先程お話ししたように、復興まちづくり計画案が策定さ  
156 れるまでの間、委員としての任務をぜひお願いして、いただきたいというふうに考えております。

157 【竹原 天 委員】

158 そうすると、一応3月までという感じですね。

159 【事務局 平岩 邦弘】

160 町の方としては3月末までの計画の策定を委員会の方をお願いをしておりますので、そのスケ  
161 ジュールで進んでおります。

162 【竹原 天 委員】

163 そこから先はメンバーが代わるという可能性もありますね。

164 【事務局 平岩 邦弘】

165 その件につきましては今後のことですので、ここではっきりこうなるとは申し上げられないん  
166 ですけれども。当面はそのようなスケジュールです。

167 【竹原 天 委員】

168 時間なくなっちゃうんで、先。

169 【木幡 敏郎 副部長】

170 よろしく申し上げます。任期は定められる、いや、策定されるまでの間ということで、予定で  
171 は3月ということになっておりますので、まずそれに向かって、何とかこの計画を策定できれば  
172 と思います。よろしく申し上げます。早速ですけれど、この論点につきまして、事務局の案とい  
173 うことでありますが、これについて、何か付け加えるところとか、何か修正などありましたら。

174 【西内 芳徳 委員】

175 (案) ということで、先日のアンケート、住民意向調査の結果を受けて決定となっておりますか  
176 ら、それが出てみないと、どこを改善する、変えるか、今の中では難しいと思うんですよ。本当  
177 に町民が何を望んでいるかやっぱり出てこない。この段階では(案)で止めておくしかないか  
178 などと思います。

179 【木幡 敏郎 副部長】

180 この30分という短い間の中では、それは事務局案の中にもこの復興会議や住民意向調査、今  
181 後整理されるというその結果を基に、状況を整理してやりたいというような考えであります。そ  
182 れは西内委員のおっしゃる通りであります。

183 【西内 芳徳 委員】

184 それを見てみないと意見も言いづらいかなど。

185 【木幡 敏郎 副部長】

186 そうですか。その他、どんなことでも。もしも、なければ5分で終わるんですが、限られた時  
187 間ではありますけれども、何かその他ですね。

188 【竹原 天 委員】

189 初めて出たんだけど、町内の学校の再建というのがあるんだよな。これ今までもう何回もこう  
190 いう議論し合ったけども、学校の再建というのとは出たことなかったんだ、これは是非ね。一回町  
191 長いるとき言ったんだと思うんだけど、俺が話したら「子どもが集められない」と返事した  
192 んだよな。でね、「とんでもないやつだな」と思ったんだけど、「集める方法も考えないで、集め  
193 られないというのはおかしいんじゃないか」と思って。俺、そんなこと言わなかったんだけど。  
194 だからこれがこの中では、一番重要視してる。子どもが集まらないから町は復興できないんだよ、  
195 何年経っても。今の子どもが来ないとすればその下の子どもも同じだろ。孫・ひ孫まで無理だ。  
196 その頃になったら、もう 30 年したらもう完全に消えちゃうよ。だからもう俺、この話は今日か  
197 ら来ないかと思ったんだ、来てもしようがないから。町長の 30 年の話からな。俺は大体 3 年か  
198 ら 5 年くらいの形で進んでいかないと、我々の責任は見通しつけて終わりかな、と。見通しつけ  
199 て若い世代に頼んでいくという考えでいるんだけど。それで今任期の話をしたんだけど。そんな  
200 考えでありますんで、特にこの中で言うことはありません。

201 【木幡 敏郎 副部長】

202 このような内容で、これを基にということできるとりあえずよろしいですね。

203 【竹原 天 委員】

204 はい。

205 【木幡 敏郎 副部長】

206 少なくとも私たちができる範囲の中で、いろいろ計画をやっていきましょう。見直しも含めて、  
207 いい方向に。

208 【西内 芳徳 委員】

209 竹原委員の言うとおりで、この学校というのは私もちょっと引かかるものですから、以前にも  
210 1 回こういうのが話題になってた時の浪江の話を使いたいんですけど、二本松に小学校をつくっ  
211 ても、25 年度の希望者は 0 というそういう現実にあるというふうに聞いたものですから。ただ  
212 それからやっぱり何ヵ月か経ってみて、現状どうなのか逆に事務局の方から、浪江町とかの状況  
213 を聞いてほしいということ。要望として。浪江町が、私聞いた時には 25 年度の希望者、新入学  
214 生 0 という現実を聞いてたんだけど、何ヵ月か経って状況が変わったのかどうか、事務局を通じ  
215 て希望調査の状況を聞いていただければ。

216 【木幡 敏郎 副部長】

217 それは資料としては取れるものだと思いますけれども。それは要望ですか。

218 【西内 芳徳 委員】

219 要望です。

220 【木幡 敏郎 副部長】

221 それは特別大きな事ではなくて、要望としてということでもいいですよ、これは町の方で。

222 【事務局 平岩 邦弘】

223 はい。

224 【木幡 敏郎 副部長】

225 今やっぱりあの帰還、なんといっても先程からの議論にありますように、帰還は線量が大きな  
226 課題ではないかというふうに思いますよね。そういった意味では線量の低減に加えて、というふ

227 うなことも含めては、ここにあるように、いろいろあるんですけども。子どもたちもやっぱり不安を持って、子どもたちも親も、不安を持ってはなかなか帰還できないというので、やっぱり線量の低減かなとは思いますがね。

230 【西内 芳徳 委員】

231 浪江の現状というのは線量だけではないか。やっぱり地元の幼稚園に上がってるんで、その子と同じ小学校に上げないと、福祉学級みたいな希望者の少ないところに入れたくないという親の現実もあるかと思うので、それがそのままなのか、変わったのか、聞いてみたいと思います。

234 【木幡 敏郎 副部長】

235 それは事務局の方で、この次の機会にも、学校の状況。これは川内も同じか。

236 【木村 真三 委員】

237 僕、川内村で年末年始を過ごしました。川内村の4期連続ずっと村議会議員を続けていた方のお家に行って年を過ごした時にいろいろとお話を聞いてまいりまして、聞いた上で言うと、まず川内村は遠藤村長が言うように、「帰還をさせる」というふうに言った時に、「今どのくらい帰ってるんですか」と。「4割くらいだな」と。

241 【竹原 天 委員】

242 そんなに居たんですか。

243 【木村 真三 委員】

244 はい。「4割しか居ないんだ」と。「しかも年寄りばかりだ」と。「若い人は皆もう帰ってきたくないと言ってんだ」と。「もうしょうがないから」と。子どもたちがどうやって安全だということと言える保証がないときに子どもを連れて帰ることは無理なんだというのが川内の中で起きている答えで。あと、「役場や学校の先生はかわいそうだな」と。「自分家は子ども居てもお前んところは放射能で帰れねえのか」と言われたらいけないから、「泣く泣く子ども連れて帰った」と。「でもみんなやっぱり帰りたくないんだよな、若い人たちは」というのが川内のお話ではありました。僕、正直、この帰ることは意外に早くすることも可能だと思っています。僕は頭の中にアイデアがあります。あるんですが、その第一条件、これがなければ、これをしてしまえば帰ること、どんなことを考えても帰ろうということは可能かもしれない。安全にですよというのが第一条件。原発の放射能の漏えいというのが止まってくれないと、線量云々は何とかなります。というのは除染とかじゃなくても何とかできます。除染もある程度の除染は必要ですよ。でもこの除染云々よりも今の原発の状況が事故当時より放射能の放出が10億分の1になりましたよと言ってますが、現にいっぱい出てますから。これは、僕がいるような二本松とかその周辺の浜通りの人たちに対しては、「僕は影響はございません」と、はっきり言ってます。でもこれ、浜通りの、しかも原発立地町の双葉や大熊で大丈夫かと、僕はよう言わんと。だからそれが止まってくれば、止める、例えばチェルノブイリの原発のように大きく全部原発を覆ってしまっ、放射能の漏えいが止まってくれるという前提であれば、策がない訳ではないというように実は僕は頭の中にはある訳なんです。ただその前提が見越したら、そこから話をするんだったら、僕は意外に、今言った、竹原委員のおっしゃっているような、お年寄りに、俺たちは将来性というのがというお話も含めたところから議論ができていけるような部分もあるかと思っています。だからまずそこを考えて、それが止まってからだったらいくらでも僕は話がたぶんあると思うし、子

265 もたちを帰すことも可能かなと思うんですが、こればかりは分からない。

266 【竹原 天 委員】

267 こればかりは分かんないもんな。

268 【木村 真三 委員】

269 はい、ただこれを5年とか10年で止めてくれるんだったら、これは見直しがききますから、  
270 目先の話もできますから、そういったような話でやっていくのがこの部会で一番いいのかなと。  
271 0じゃなかったら僕は諦めませんよ。僕の答えは一言。これは双葉であろうとどこであろうと僕  
272 はっきり言ってるのは、諦めない。とにかく答えがあるときには、答えというか案があるとき、  
273 アイディアがあって動こうという気持ちがあるときは、諦めずに進んでいくしかもうないんだと、  
274 諦めたらその時点でおしまいだというのが僕の考えです。だから僕はみんな一緒に考えて、一緒  
275 にやっていきたいと思っております。

276 【木幡 敏郎 副部長】

277 ありがとうございます。あとその他、双葉町の当面の土地利用の在り方とか双葉町の将来の再  
278 興に向けた取組とかあってありますけれども、この辺でも、追加とか、この点について特に力を入  
279 れてというようなことなど、お墓なんかとか一時帰宅等に関しても。

280 【竹原 天 委員】

281 お墓、石屋は、区長書類書いてくれと書類持ってきたのよ。俺のハンコを擦してやると中に入れ  
282 れるという話で、個人的に分かっている人は、石屋は逐次直してる。だからお墓の心配は、そん  
283 なにいらないと思う。お金の問題だけで。だからそれは石屋と直接交渉すれば即直してくれます  
284 から。

285 【西内 芳徳 委員】

286 このグループに宗像委員が入ってるんですよ。

287 【竹原 天 委員】

288 そうだよな、元々石屋だもんな。

289 【西内 芳徳 委員】

290 だから、通常の修理代プラス放射能の危ないところでやる危険手当を町がやっぱり示さない  
291 本人はなかなか決めづらいというのを言ってただけど。

292 【木村 真三 委員】

293 つらいでしょうね。

294 【西内 芳徳 委員】

295 だからできればそれも、危険手当がどのくらいかというのを示すべきだと思うんですよ。

296 【竹原 天 委員】

297 うん、値段だけではないだろうけどな。

298 【木村 真三 委員】

299 あとざっくりというか、大雑把に言うと、もしこの帰る土地利用の在り方も含めて、未来性、  
300 将来性のある話をしますよ、今日は。将来性の帰ってくるという前提で話をした場合、まずこの  
301 地震とか津波に耐えうる場所をどこかというのを双葉町に選定してもらわないと僕はいけない  
302 と思うんですよ。じゃないと次のまちづくりというのはそこが起点になるんだから、やっぱり



303           そこが大切なんじゃないでしょうか。副部会長どうでしょうか。

304 【木幡 敏郎 副部会長】

305           ですから、今のところは全体の復旧・復興というところから、やはりそれは将来を見越した土  
306 地利用の在り方ということなのかなと。それから、宮城・岩手は高台移転などもありますけども、  
307 そのようなことを踏まえた地域づくりということなのかなというふうな先生のお話でよろしい  
308 でしょうか。

309 【木村 真三 委員】

310           そうですね。津波もあるし、津波だけじゃなくて地盤ですよ。しっかりとした固い地盤のと  
311 ころで、固い岩盤の上で、もし再建をすとなったら、僕のイメージとしては、みんなが集まっ  
312 て、規模はそれほど大きくはないけれども、集まった、みんなの町になると思うんですよ。巨大  
313 なマンションとかそういうようなもので造っていくというのが一番アイデアとしてはあ  
314 る訳なんですよ。集合住宅形態というんですが、そういうような超高層とは言わなくてもいい  
315 んですが、そういうことじゃなくても、みんなが集まったコミュニティを再建するというので、  
316 それほど広い土地を全部使うといたら、除染も何も出てきたら絶対無理ですから、現実可能な  
317 土地再建というのを考えた場合はそういうことも考えてたんです。そういうところも含めて、実  
318 は今日話を投げたのは、もし帰るとしたらそういった場所というのを、まずこの双葉町が、ここ  
319 は安全かもしれませんよというのを1つ立てればまたもう少し希望が広がるんじゃないかな  
320 と思うんです。

321 【竹原 天 委員】

322           やっぱりこの話は、希望をもって話しないとダメだね。俺らは、歳だから、せいぜいこうい  
323 う話をしてても、2、3年までかなと。そこから先はやっぱり若い人がうまく後を継いで、次々引  
324 き継いでいかないとダメかなという考えをしてる。ただ、俺の世代としては、どの辺まで話した  
325 らいいかなというのが今、区切りつかないでいるところで、3年か5年か、10年以上は大変だなと  
326 思ったり、いま大体の一区切りとして5年くらいの区切りはつけてんだけどね。

327 【木村 真三 委員】

328           それでいいと思いますよ。そういう意見を、やっぱり区長が言うことは大切だと思うし、区長  
329 は逆に僕らの意見をまた帰ってお話をさせていただくとか話まとめていただくとかというのは必  
330 要なんで、大切なことだと思うんですよ。だから話に乗る乗らないじゃなくて、加わってやっ  
331 ていくということで。あと引継ぎはしてくれればいい訳ですから。そういう考えでやっていただ  
332 いたら、希望が持てます。

333 【竹原 天 委員】

334           それで、任期を聞いたんだけど。

335 【木村 真三 委員】

336           なるほどね。

337 【木幡 敏郎 副部会長】

338           やっぱりいろいろな立場の方のご意見も大事ですから。そんなことでいろいろありますけれど  
339 も、限られた時間ですので、今あと10分になりました。津波被災も含めて、今先生の方から、  
340 土地利用は大事だよと。双葉町の将来の再興に向けた取組については、土地利用、インフラ、新

341 たな産業など確かに事務局案ではあります。これは長期にわたって、見直しも含めながら議論を  
342 続けるということでありますけれど、どんなことでもよろしいですが何か。

343 【渡辺 勇 委員】

344 今、木村先生の方から話があった通り、土地の確認というのは非常に大事なことだと思います。  
345 私の方の担当も関係してるんですが、この次の津波がどの辺までくるかということと、マグニチ  
346 ュード9クラスの地震についてのやはり対応を、10年、20年、30年のスパンで考えると、どう  
347 しても木村先生も言ったとおり、地盤、それから海岸線からのある程度の安全性が確保できる距  
348 離も含めて考えなくてはならないんじゃないかというふうには考えています。特に、今現在津波  
349 に対して無防備な状態にあるのが現状なので、この次、今回3月11日の地震では、双葉町の場  
350 合は本当に1kmくらいの浸水で済みましたけど、浪江町を含めて、旧小高町なんかをみると2km、  
351 3kmは普通に入って来てるんで、そういうことを考えると復興に向けて放射線だけではなくて、  
352 次の津波の可能性にも言及してつくらなくちゃならないかなというふうには思います。以上です。

353 【木幡 敏郎 副部長】

354 追加ですとか修正については特にはないですよ、まだ。その辺については。

355 【竹原 天 委員】

356 さっき、線量が低くなったところから帰れるという話もありますね。あれは、とんでもない話  
357 だよ。線量低いから帰れと言ったって、その途中の道路とかなんかどうなんだろう。だからそこ  
358 は低くなったから帰れるよと言ったって、行く道路がなかったら帰れないよな。ヘリコプターで  
359 も用意してくれんならみんな帰れるけど。チラっと言ったよな、何かの中だな。

360 【木幡 敏郎 副部長】

361 そういった意味で、利用の在り方では2番目の論点にはインフラ復旧ということをですね。

362 【竹原 天 委員】

363 土地は具体的に言うと、天王山がいいと思ったんだけど。だけどあそこ中間貯蔵施設の丸入っ  
364 てるよな。具体的に町で示してくれないけど、どうもあれ見ると、合わせてみると、あれが中間  
365 貯蔵施設のできる場所だな。

366 【木村 真三 委員】

367 天王山の方。

368 【竹原 天 委員】

369 地盤もいいしね。あそこ岩盤だし。中間貯蔵施設だってそういういいところに造りてえだろうか  
370 ら、だからこの話はこの辺はさっき言われたように、この中間貯蔵施設も絡むんで、何とも話は  
371 進めらんねえな。この土地利用については。

372 【木幡 敏郎 副部長】

373 限られた時間ですけど、ある程度の計画をしながら、中間貯蔵施設によっては大分変わってし  
374 まうということもあるんで、この委員会というのかな、復興委員会全体でこの中間貯蔵施設とは  
375 何ぞやというふうな勉強会をもって、良いとか悪いとかいうのはまだともかく、私共は先だって  
376 除染の勉強会をやらせてもらったんですけど、果たして除染に効果があるのかというふうなこ  
377 とで。今回は中間貯蔵施設について、委員の人たちはどのようなものなのか、今のところ町と議  
378 員には出ているんですか、それは。議員の勉強会もやったんですか。

379 【事務局 平岩 邦弘】  
380 勉強会というよりは国の説明を受けたというふうなことで。  
381 【木幡 敏郎 副部長】  
382 そしたら勉強会だな。  
383 【西内 芳徳 委員】  
384 町長にも聞いてみたかったですけど、昨日とか一昨日、石原新環境大臣との話し合いで絶対  
385 中間貯蔵施設の話もしてんじゃないかなと思って聞いてみたかったんだけど。どんな内容だった  
386 か、どういう感想をもったか。  
387 【木幡 敏郎 副部長】  
388 だから今この町の復興に、本当に言わば、みんなもこうして忙しいところ熱心にやっている  
389 方々で、中間貯蔵は避けて通れないようなものだと思うとき、勉強会を是非お聞きしたいものだ  
390 など思うんですけども、どんなものでしょうかね。  
391 【木村 真三 委員】  
392 だと思います。  
393 【木幡 敏郎 副部長】  
394 伊澤委員どうですか、若い方。例えばいろいろな懇談会でも中間貯蔵施設があるからダメだと  
395 か、中間貯蔵施設はやっぱり進めるべきだとかいろいろな意見があるんだけど、中間貯蔵施設と  
396 いうのはどんなふうなものなんだ、どんなふうな構造なんだ、どういうふうなもので果たして進  
397 められるかというようなことを、やっぱり知っておくのも、復興委員会の委員としてどうかなと  
398 思うんですけどね。  
399 【竹原 天 委員】  
400 そうだな。結局中間貯蔵施設というのは出来れば住めないと極端に言ってる人も居るからね。  
401 それはやっぱり勉強が必要だと思うし、もっと具体的なきちっとしたことを聞いた方が、それは  
402 いいかもわかんないですね。  
403 【木幡 敏郎 副部長】  
404 いろいろな反論もあるものについては私たちも勉強しながら果たしてどうなのか、良いのか悪  
405 いのか、どういう構造なのかとかいろいろなことを聞くことも必要かなと思うんですよ。  
406 【西内 芳徳 委員】  
407 事実を知りたいですよ。中間貯蔵施設から半径 2km は居住制限というのは噂というか話で  
408 聞くと、新山も長塚も大体町の人口の多いところは帰れません、住めませんとなっちゃうという  
409 のが、本当なのかどうか、その事実をまず知りたい。  
410 【木幡 敏郎 副部長】  
411 そういう点ではな。伊澤委員どうですか、若い方。  
412 【伊澤 慶昭 委員】  
413 そうですね。  
414 【木幡 敏郎 副部長】  
415 勉強するということには。  
416 【渡辺 勇 委員】

417 今の 1km、2km という話というのは、法的な規制はないんです。これはあくまでも心情・感  
418 情的なもの、あとやはり事務的には何らかのトラブルの際のバッファー的な距離としての 1km、  
419 2km だと思います。

420 【西内 芳徳 委員】

421 町の人口の半分くらい入っちゃう。ですよね。半分以上入るか。

422 【渡辺 勇 委員】

423 大体推定で 2km だと 1,000 世帯くらい入っちゃうような、1,200 世帯くらいになるか。

424 【竹原 天 委員】

425 俺が町長だったら、早く手を挙げて、「中間貯蔵つくれ」と言うんだ。他の町で仮置きしてい  
426 るものを、全部双葉へ持ってきてやればみんな喜ぶよ、確かにすごい双葉だって。

427 【木幡 敏郎 副部長】

428 それはまずこちらに置いて。冷静に事実を知りたい。だからどういうふうなものなのかという  
429 こと。事務局、それを要望しておきます。

430 【事務局 平岩 邦弘】

431 今の件については、この後の委員会の方で部会の審議報告もありますので、ぜひ副部長の方  
432 から、部会としてこういう話がありましたということを委員会の方にお話しいただければと思  
433 います。

434 【木村 真三 委員】

435 あと、この中間貯蔵施設は本当に中間になるのか。青森県でさえ、「うちは最終処分場になり  
436 たくないから、ただあれでは再処理固形化燃料装置をつくる施設は貸与します」と言ってやっ  
437 てるんですから、あそこの分まで全部がどこにくるのかというのは、これ日本全体の問題になる  
438 ですよ。そういったことも含めて、考えていかねばならないし。かといって、これを全部う  
439 ちは関係ない、嫌ですとも言えない。これはどうしてかといったら、もう原発あるという原発立地  
440 町の責任というものも含まれるし、そういったことも全部考えた上で、みんなで考えていく、こ  
441 れものすごく大事な話なんです。避けては通れないんだけど、気持ちとしてはつらいですよ、  
442 僕なんかは。本当にこうやって顔を一人一人見るところでお話してるじゃないですか。そうし  
443 たらやっぱりこの人たちのために僕何とかしたい、安心して暮らせる時期を考えたり、みんなで何  
444 とかいい方向でというときに、この問題は本当に気が重くなるんですが、ただやっぱり議論はし  
445 ましょう、しないといけない。勉強会しましょう。ちなみに僕の居ないときには僕の代理立てま  
446 すから。僕の上司の教授を連れてきますから。彼は放射線の専門家じゃないんで、放射線のこと  
447 については分からないかもしれませんが、ただ人物としては立派な方なので、僕が出られないと  
448 きは代理を立てます。

449 【木幡 敏郎 副部長】

450 なるべく先生の都合のいいときにスケジュール組んでください。よろしくお願いします。

451 【木村 真三 委員】

452 わかりました。

453 【木幡 敏郎 副部長】

454 それではあと 3 分となりました。その他、大体まとめたいと思いますが、何か訂正なり付け加

455 えることありませんか。あと、また整理して、意向調査がまとめ次第整理してという中にもあ  
456 るということで、只今、皆様から貴重なご意見いただきました。これまでの議論を踏まえまして、  
457 ふるさと再建に向けた取組の考え方については、この資料、説明をベースといたしまして、本日  
458 の意見と皆様の追加意見を基に、事務局に骨子作成を進めさせたいと思いますけれど、それでよ  
459 ろしいですか。

460 [異議なしと呼ぶ委員あり]

461 【木幡 敏郎 副部長】

462 ありがとうございます。

463 【竹原 天 委員】

464 なんかあっちこっちになっちゃったけど、よろしく。

465 【木幡 敏郎 副部長】

466 まとめ方は事務局優秀ですから、大丈夫です。それでは本日の説明した内容と皆さんからのご  
467 意見に基づいて、次回の委員会までに骨子作成を進めていただきますようお願いいたします。

468

469 (2) その他

470 【事務局 平岩 邦弘】

471 部会といたしましては、今日、計画に盛り込む項目等について皆さんにご議論いただきました  
472 ので、今、部会の方で話していただいたように、次回の委員会を1月31日に予定しております  
473 けれども、その中で、骨子というものを事務局でまとめてご審議をいただきたいと思います。部  
474 会も同様に、骨子の作成を進めていきたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。本日、  
475 委員会の方と部会の方で資料をお配りしておりますけれども、本日欠席された委員の方もいらっし  
476 ゃいますし、また追加の意見というのものもあるかと思っておりますので、こちらの方、よろしければお送  
477 りいたします。来週の水曜日くらいに、事務局の方に出していただいて、これについても骨子の  
478 方に反映させていきたいと考えております。よろしくお願ひしたいと思ひます。事務局からは以  
479 上です。

480

481 3. 閉 会

482 【木幡 敏郎 副部長】

483 それでは時間となりましたので、次の委員会も控えておりますので、以上をもちまして、本日  
484 の部会の議事を終了したいと思います。本当にどうも皆さんありがとうございました。

485

以上

# 第4回ふるさと再建部会座席表

(敬称略)

木  
幡  
敏  
郎



1 日時 平成25年1月17日(木)

15:00~15:45

2 場所 双葉町埼玉支所 4階 4-B

木村 真三

伊澤 慶昭

(代理)  
井戸川 陽一

竹原 天

西内 芳徳

(代理)  
舶来 丈夫

渡辺 勇

平岩

事務局  
相楽

森

事務局